

「加治木中学校の太鼓踊伝承活動の取組」

1 学校名

始良市立加治木中学校

2 学年・人数

1年生38人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成29年7月～11月 総合的な学習の時間（本校中庭）

平成29年10月25日（水）リハーサル（本校体育館）

平成29年11月1日（水）リハーサル（本校体育館）

(2) 発表の日時・場所

平成29年11月2日（木）加治木中学校文化祭（本校体育館）

平成29年11月12日（日）かじき秋祭り（加音ホール）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

太鼓踊（たいこおどり）

(2) 由来

江戸で駿河の念仏踊りが練り歩いたところ，大流行していた疫病が下火になったという話を島津義弘が聞き，文禄・慶長の凱旋祝いに家臣に習得させ，薩摩に持ち帰ったといわれている。太鼓踊りは，昔は雨乞いの時も踊ったといい，疫病や災厄をもたらす悪霊や御霊を鎮めて勇壮・豪華な踊りや華やかな行列で送り出そうとするもので，農村生活に密着した野趣にあふれた群舞である。

(3) 構成等

太鼓踊りの先頭に立つのは「ホタ振り」といい，太鼓と鉦に合うようにホタや扇を振り，踊りの指揮を取るように踊る。その後ろには「鉦打ち」が4人続き，歌に合わせて鉦を打ち鳴らす。「太鼓打ち」は，道太鼓（行進）の時は2列縦隊で，庭踊りの時は円形になり左まわりにまわって，足をはねて賑やかに踊る。2列に並ぶ踊り手は，朝鮮軍と島津軍に分かれ，戦の様子を演じる。また，白・赤の化粧をした二人のドラ打ちは血生臭い戦場でユーモラスな動きを加え，笑いを誘う狐役である。

1961（昭和36）年に，鹿児島県指定無形民俗文化財に指定されている。

5 保存会や地域との連携の具体

総合的な学習の時間の1年生の学習テーマが郷土教育学習となっており，加治木地区にある保存会の方が毎年交代で文化祭での発表と地域行事への参加に向けて指導をしてくださっている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

7月に、始良市教育委員会社会教育課文化財係の職員の方と太鼓踊り保存会の方を講師として学校にお招きし、太鼓踊りの歴史や現在の取り組みについてDVDや資料を使って講演をしていただいた。11月初旬の文化祭に向けて9月下旬から19回の練習を行った。練習のはじめに、「ホタ振り」「鉦打ち」「太鼓打ち」の役割について歴史的な背景を含めて説明をしていただいた。それぞれの動きにどんな意味があるのかを学んでから練習に取り組んだ。太鼓踊り保存会の方々は、練習の時間には必ず指導に来てくださった。

練習の合間を使って「この太鼓踊りの伝統を地域で引き継いでいくためにどのような取り組みをしてきたか」ということをお話していただくことで、伝統を引き継ぐことの大変さや偉大さを生徒が学べるように工夫した。

7 取り組みの様子



【太鼓の装着練習】



【加治木中学校文化祭】



【かじき秋祭り】

8 参加生徒の感想

私は何年も加治木に住んでいるのですが、太鼓踊りについてはほとんど何も知りませんでした。今回、文化祭やかじき秋まつりを通して、実際に身をもって学べるというのは、とても貴重で新鮮な時間となりました。

練習では、暑かったり太鼓が重くて肩が痛かったりすることもありましたが、保存会の方々がお手本を示しながら、いつも丁寧に教えてくださったおかげで頑張ることができました。保存会の方々には心から感謝しています。ありがとうございました。

私はこの太鼓踊りの活動を通して、伝統文化を受け継ぐことはとても大事なことだと気付くことができました。伝統文化には、昔の人々のいろいろな思いや願いが込められているので、これからも大事にしていきたいと思います。